多高通信

第186号　令和3年4月28日発行

さとく　ゆたかに　たくましく
宮城県多賀城高等学校

祝 46回生入学おめでとう！

4月8日、令和3年度入学式が挙行され、満開の桜に囲まれながら280名の新入生が多賀城高校に入学しました。入学式では、新入生代表の及川昊也くん（玉川中出身）が新入生を代表して宣誓を行いました。

翌9日には対面式・部活動紹介がリモート形式で行われ、各部の趣向を凝らした紹介動画や、生徒会執行部のスピーチ等が行われました。また、ホームルームにおける学級開きでは初々しく自己紹介する姿が見られました。その後は、学年オリエンテーションや授業ごとのオリエンテーションを経て、通常授業や部活動が順次始まっていきます。互いに親睦を深め、早く学校に慣れ、多高生として学習に部活動にどんどん力を注いでもらいたいと思います。

★新入生にインタビューしました★

■1年1組　澤口　織仁（秀光中教校出身）

私は、中学までとは違う大人数の中で授業を受けることが新鮮で、これまでと変わった授業スタイルに取り組みながら学業と部活動の両立を目指しています。

単に学習に力を入れるだけではなく、挨拶などの礼儀作法をきちんとすることなど、将来社会で必要とされる人間になり、世のため人のためを思って生活できるよう、日々の学校生活に励みたいと思います。

■1年2組　北郷　希（東仙台中出身）

高校の入学時は中学入学時とは違い、知らない人が多く最初はとても戸惑いました。しかし、だんだん仲良くなった人も多くなっていき、今では毎日楽しく学校に通うことができています。

私が立てた高校生活の目標は勉強と部活の両立です。目標の達成のために、毎日の学習時間と勉強時間を大切にして、充実した学校生活を送れるように頑張りたいと思います。

■1年3組　小林　彩乃（玉川中出身）

中学校を卒業して、気持ちを新たに今までとは違った生活を送ることに不安もありますが、毎日どんな学校生活が待っているのかという期待もあります。多賀城高校へ入学して感じたことは、先輩方を見て挨拶が素晴らしく礼儀正しいなということです。高校では授業内容が難しくなることから、分からないところをそのままにせず自分で調べたり聞いたりしてその都度解決し、苦手意識を持たないようにしていきたいです。

先輩方の何事にも努力する文武両道の精神を見習い、大学進学という目標のもと、3年間の高校生活を充実したものにしていきたいです。

■1年4組　川村　晴太（塩竈二中出身）

多賀城高校に入学し約1週間が経ちました。その中で私は、暇だと思える時間がほぼ無くなってしまったな、と感じました。中学校の時と比べて帰宅時間が遅くなったり土日も部活があったりすることで、これまでの生活とズレが生じ、思うように物事が進んでいないなと思うことが増え、慣れない環境に疲れを感じることもありました。ですが、この環境に「慣れる」のを待つのではなく、自ら「適応」していかなければならないのだと思いました。「文武両道」を体現できるよう、始まったばかりの高校生活を頑張っていきたいと思います。

■1年5組　坪井　俊斗（東豊中出身）

ビックリが沢山です。まず、学校にスマホを持っていけるのがビックリです。授業中に自由に使うことができる授業もあります。中学校は持っていくことが禁止されていたので、まだ少し背徳感があります。それと、お弁当を外で食べられるのもビックリです。教室で班になって食べるというのが普通だったので、ザ・青春という感じがします。青空に包まれ、暖かな陽の光と風を肌で感じながら食べる弁当は格別です。ぜひ皆さんも食べてみてください！　ちなみに私は一度も外で食べたことがありません。

■1年6組　安田　芽生（多賀城二中出身）

まだまだ不慣れでバタバタとしてうまくいかないこともあります。それでも、不思議と諦める気にはならず、頑張ろうという気持ちになれます。この多賀城高校の校風や先生、新たに仲良くなることができた明るい友人、そういったものや人たちが自分をこんな気持ちにしてくれているのかもしれません。多高生として、短い高校生活での日常や毎日の積み重ねを大切にしていきたいと思っています。

様々な授業のオリエンテーションで、考査だけでなく宿題や小テストがどれだけ重要か教わりました。日々継続することで多くのことを身に付けていきたいです。

■1年7組　遠藤　羽琉（東豊中出身）

入学する前は新しい環境に緊張もありとても不安でしたが、徐々に友達もでき、先輩方もとても優しく、すべてが真新しく毎日本当にワクワクした日々を過ごしています。

私は中学の時に東日本大震災メモリアルdayなどに参加し、日本の災害の多さや自然災害の恐ろしさなどを知り、災害についてもっと知りたいと思い、多賀城高校の災害科学科に入学しました。これから始まる災害に関する特別授業や研修などがとても楽しみです。災害時の教訓や対策などを学び、自分なりに課題を探し検証して、今後の防災に役立つ対策を見つけたいと思います。

吹奏楽部 ジュニア管打楽器コンクール 全国大会金賞！

■3年6組　鎌田　咲希（塩釜一中出身）

3月26日に開催されました「第23回日本ジュニア管楽器コンクール本選考会」にお きまして、金管8重奏が金賞（1位）を頂きました。今年は例年とは異なり、全国大会の会場で直接演奏することは出来ませんでしたが、自分たちなりに工夫して練習し表現した音楽を録音におさめることが出来ました。結果を見た時は信じられないくらい嬉しくて、練習中にぶつかったたくさんの壁が一瞬で吹き飛ぶぐらい私たちにとって大きな出来事となりました。部の代表として、部員の想いを背負って頑張ったこと、この8人だから作れた音楽でこのような結果を頂けたことは、これからの本校吹奏楽部の活力になってくると思います。

新年度に入り、3年生にとって最後の演奏会や大会が近づいてくるので、音楽と吹奏楽への情熱を持ち続け、日々の練習で感動を味わいながら、全力で課題と向き合い部員全員で力を合わせて良い演奏に繋がるよう、これからも頑張っていきたいと思います。

いつも支えて下さる先生方、生徒の皆さん、地域の方々、そして私たちを1番近いところで応援して支えて下さる保護者の皆様への感謝を忘れず、日々の練習に取り組んでいきたいと思います。これからも本校吹奏楽部の応援をよろしくお願いします。

語学研究部 日本アセアンセンター オンラインプログラム 参加

語学研究部では、「日本アセアンセンターオンラインプログラム」に参加し、Zoomにて本校iRis Hallから、ASEAN諸国の文化や日本とASEAN諸国との関係について学びました。また、ブルネイ出身の方と英語も交えて交流し、災害に関すること、新型コロナ、日本との違い等様々なことを質問しながら学ぶことができました。

■2年7組　三浦　誠鈴（館中出身）

普通に生活していると、どうしてもASEAN諸国には目が行かず、ヨーロッパやアメリカに興味を持つ人が多いと思います。しかし、今回ASEANセンターの方にお話を聞き、私たちの知らない東南アジアの魅力を知ることができたと思います。石油やコーヒーなどの輸出産品を日本が輸入することで、互いに助け合いができていたり、日本の技術協力が都市の発展の手助けになっていたり、互いにより良い関係を築いていくことで、今後の経済成長や、多くの課題の解決に向けて良い影響が期待できるのではないかと考えました。

世界中がコロナウィルスと戦っている中で、今それぞれの国がどんな状況に置かれているのかを知りたいと思い、コロナによる観光客の減少でASEAN諸国がどんな影響を受けているか質問したところ、特に観光に経済成長を頼っている国々では経済が完全に止まり、失業者が増えていると聞きました。観光資源の大切さや経済状況をASEAN諸国の現状の話から学び考えることができました。